

研究紀要論文抄録

個別大学のアドミッションセンターで入試研究を行う上での 問題点の認識及び解決策の共有化について —平成19年度アドミッションセンター若手の会—発表要旨集

椎名久美子ⁱ 西郡 大ⁱⁱ 福島 真司ⁱⁱⁱ
吉村 宰^{iv} 木村 拓也^{iv} 倉元 直樹^v

平成11年以降、アドミッションセンターを設置する国立大学が増加しており、専任教員によって各大学の入試改善に関する研究活動が行われている。入試研究を行う上での問題点に関する認識やそれらの解決策について、各大学の教員が大学を越えて共有することは、入試研究を活性化するための基盤を確立することに繋がると思われるが、現場レベルの具体的な問題点は公式の場では話題にはなりにくい実状がある。そのような中、平成14年以降、国立大学アドミッションセンターの若手教員を中心に、入試研究の発表活動が行われており、平成19年度以降は大学入試センター理事長裁量経費を原資とした研究会活動も行われている。

この論文には、平成19年度の研究会における発表要旨の一部を収録した。

西郡による「受験生対象の面接試験アンケート調査の試みとその困難さ」は、面接試験の手続きに関する要因が受験生に与える影響を分析するために実施したアンケート調査において、どのような実施上の問題点があったかをまとめたものである。

福島による「大学を超えた入試関連データの共有はどこまで可能か—面接内容、調査書の分析を通して—」は、研究者が異動した場合、入試に関わる研究データや研究成果がどこに帰属すると考えるべきか、などの問題を提起するものである。

吉村による「大学入試センターに望

むこと」は、大学入試センターが中期計画で実施している研究が各大学の入学者選抜方法の改善に具体的にどのような貢献するのかが見えてこないという問題点を指摘した上で、個別大学のニーズを紹介するものである。

椎名による「個人情報保護に配慮した追跡調査の実現について」では、センターと各大学が共同で入試成績と入学後成績の関係を分析することを想定して、個人情報保護の問題や技術的な問題を解決するための手続きが提案されている。

木村による「『合計得点』による入学者選抜の基礎付け研究の変遷」は、1924年以降の合計得点をめぐる議論を概観したもので、傾斜配点の有効性の吟味、合否入れ替わり率に関する発想、合計得点の加算方式の基底にある「相互補完の原理」などが紹介されると共に、共分散比による選抜方式の事後評価や、合否入れ替わり率や学力プロフィールに関する見解が示された。

西郡による「リスニングテストに関する調査—『妥当性』と『均一性』に注目した高校生の認識の検討—」は、リスニングテストを高校生に体験させて、大規模でハイステークスなリスニングテストにおいてどのような意識が

潜在しているかを検討したものである。

木村による「評価基準の多元化と大学入学者選抜の公平性の相克」は、スーパーサイエンス・ハイスクール及びサイエンス・パートナーシップ・プロジェクトでの研究活動をAO入試でどのように用いるか、についての問題を提起するものである。

倉元による「入試研究による高大接続問題へのアプローチ—東北大学の入試広報と全学教育—」では、10年分の東北大学の入試データから14種類の地域分類指標を作成して、都道府県を四つの群に分類することで、入試広報戦略の検討を行ったり、学生へのインタビューを分析することで2種類の学習体験モデルを見出したり、といった個別大学の立場からの研究が紹介されたが、その上で、個別大学の立場を超えて、わが国の大学を鳥瞰した広い視野からの研究の必要性が指摘された。

いずれも、様々な制約の中で質の高い研究を目指して活動していることがうかがわれるものである。また、個別大学から大学入試センターへの要望については、入試の現場からの切実な要望として真摯に受け止めるべきであろう。

i 大学入試センター研究開発部試験評価解析研究部門
ii 佐賀大学アドミッションセンター
(前所属：東北大学大学院・日本学術振興会特別研究員)
iii 山形大学エンrollment・マネジメント室
iv 長崎大学アドミッションセンター
v 東北大学高等教育開発推進センター